記憶に刻まれた

喜納トヨさんの証言

沖縄戦では、多くの住民が壕での生活 を余儀なくされました。激しい戦闘の中、 家族で支え合いながら幾度も壕を移動 生死の狭間を生き抜いた体験があり ます。当時14歳だった女性が語る戦争は、 日常をどのように変え、人々にどれほど 深い傷を残したのかが見えてきます。

喜納トヨさん(94歳)

1930(昭和5)年、字真栄平で大城家の長女 として生まれる。戦後、18歳で結婚し、夫と ともに農業を営み、5人の子宝に恵まれる。現 在は孫5人、ひ孫5人にまで恵まれ、週に2度

のデイサービスを楽しみに生活する。

大きくて、 最初に避難したのは、

落のはずれにあるアギルンと いう場所の壕だった。ここは

集落の近くに

追い出されてしまった。仕方 が来て「出て行きなさい」と 入ってしばらくすると日本兵 シという場所の壕だったね。

集落南の、 ウフヤマという

生死を分けたウフヤマ

近に見るのは初めてだったか らびっくりしたけど、同時に、 よ」と教えられた。死体を間 思ったら「あれは死んだ人だ うしてここにあるんだろうと くて丸いものがあってね。ど カーミ(水瓶)みたいな、 側に汲んだ水を溜めておく ろうとした。 4つあったから、どれかに入大きな岩があるところに壕が すると、壕の 黒

近づく沖縄戦

人、弟2人の7人で、 私の家族は父、 両親 芋と 妹 2

作った。ここに味噌や塩、米 ころ兵隊にとられてしまっ キビを育てながら、 は農業をやっていたさ。 管していたよ。オト 屋敷に穴を掘って屋敷壕を 警防団にも入っていた。 戦争が近づくと、 字民は -はこの

で家に帰らされた。この日か 空襲警報が鳴ったから途中 国民学校の卒業式前日で予 行演習の予定だったけど、 昭和20年3月23日は真壁

ら壕での生活が始まったさ。

壕での避難生活

壕にあったから、オカーが家 に戻って料理して、壕まで持っ 避難していた。食料は屋敷 7家族くらいが

糸満 照屋 兼城 座波 賀数 北波平 武富 阿波根 潮平 豊原 与座 大里 国吉 真栄里 真壁 宇江城 真栄平 新垣 伊敷 名城 小波蔵 糸洲 喜屋武 福地 山城 東辺名 なったことがうか がえる。 上里 南波平 伊原 米須 大度

字別の戦没率(%)

しかない。

あんたらと一緒だ

によって、きれいに整備がなされた。

さん)が、

「手りゅう弾は2つ

死なせてくれ」って頼んだわ

するとそこのスー(お父

軍の捕虜になるくらいなら死 ていた。私たち家族も、 これから集団自決すると言っ と、既に3家族が入っていて、 けなくなった。隣の壕に行く

> えた。 けど、

そこにも3家族が入っていた ガリヘーという屋敷に行った。

なんとか入れてもら

南城市)から東喜(現名護市)

話したことがない。 自分の子どもにも、

捕虜になった後は、佐敷(現

栄平に戻って来たのは昭和21 糸満市の名城に移って、 と収容所を移った。それから

失った。もうあんな思いは一 怖いからね。戦争で家族を

真

真栄平に戻っ

度としたくないよ。

後みんなも出て行ったさ。 ドシひとつで外に出て、その

んだ方がいいと思って、二緒に

話を聞いていたから、 栄平の人を虐殺したという 私はそのころ、日本軍が真 は終わったから出てこい」っ 送が流れていた。でもね、 て、スピーカーから米軍の放 6月23日からはね、「戦争

ない」と言われた。でも行く ここでも「いっぱいだから入れ

-ね。「入り口で

い」と何度もお願いしたけ から「私たちも命は惜しくな う、みんな死ぬと思っている らえなかった。このときはも 損なう)」と言って、入れても とシニカンティーする (死に

戦後の生活と今の思い

だめだった。

さらに隣の壕に行ったら、

ハワイ帰りのお父さんに「|晩 もいい」と頼むと、中にいた

さんに持って行ったよ。「命の ならいいけど、戦争の話は がいなかったら、私たち家族 こんなことはね、これまで 明るい話 孫にも

は生きていられなかったさ。

沖縄戦における糸満市の情報は、『糸満市史 戦時資料上巻』『同下巻』で詳しく紹 ています。また、広報いとまんでは、慰

過去の証言と糸満市史

ます。過去の記事は2次元 コードから確認できます。



過去の記事は

だって思ったさ。

みんな戦争でいつか死ぬん

早くにアガリへーに行きなさ

.。 兵隊が造った大きな壕が

しまって、

すぐに出ないとい

けど、ここも攻撃で崩れて

うとおり、

早朝の暗いうち

ということで、

オジーがフン

煙が充満して、

もうだめだ

恩人」ってことでね。

この

あったら、ハワイ帰りのお父てからはね、おいしいものが

り口を塞いでいた畳が焼けて の入り口を焼かれてね。 ないもんだから、最後には壕

にウフヤマを出て、

近くのア

ち家族はこのお父さんの言 あるから」と言われた。私た

ともう1家族が入っ

5 | 公まは 2025.6

10

20

30

40

50

摩文仁

が幼い妹たちのお世話をして

いた。2か月くらいこんな生

もはずっと壕の中にいて、

てきてくれた。

私たち子ど

米軍の攻撃で壕が使えなく 活をしていたけど、ある日

次の避難壕を探したわけよ。 なってしまったから、みんな

次に避難したのは、テ